

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2018年10月19日(金)1限 実施
後期①考査
千葉県立長生高等学校 第3学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように5桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3年D組1番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問9)に答えよ。(配点 28)

[1] に生まれ、ガリラヤの町に育ったイエスは、30歳のころ洗礼者 [2] の洗礼を受けた。イエスの発言と行動は、(a)『新約聖書』のなかにさまざまな形で伝えられている。イエスは「時は満ち、神の国は近づいた」と語り、伝道活動を開始したと伝えられている。神の国とは、現実に繁栄する王国でも、律法を守る人々だけがむかえ入れられる来世の楽園でもない。それは、「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」というイエスのことばが示すように、神の愛や救いが、差別されたり、社会的にしいたげられた人々に、すでに差しのべられようとしていることを告げているのである。これは、恵まれぬ人々にとって、なぐさめと希望をあたえる (b)福音であった。

イエスが当時蔑視されていた人たちと食事をともしているのを、(c)パリサイ派の人たちが非難したとき、イエスは次のように語っている。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、[3] を招くためである」。このようにイエスは、律法を基準として人間の価値を評価する態度を否定し、社会的に差別されたり、いみきらわれたりする人々とともにあろうとした。

また、十戒は安息日にはたらくことを禁止していたが、イエスは「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある」と語り、律法を守ることを目的とする (d)律法主義をすどく批判した。

しかしイエスは、律法を全面的に否定したわけではない。イエスは、律法のなかで、どのおきてがもっとも大切かと問われて、次の二つをあげている。第一は「心を尽つくし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの [4] である主を愛しなさい」であり、第二は「[5] を自分のように愛しなさい」ということであった。

(e)愛についてのイエスの考え方によれば、神の愛のもとでは人間に身分の高い低いはない。実際にイエス自身も抑圧されていた人々の立場に身をおき、ユダヤ教の律法主義者をはじめとした支配体制をきびしく批判した。そのためイエスは、ローマの役人の手でとらえられ、(f)十字架の刑に処せられた。

イエスの死に直面した弟子たちは、イエスは神が人間につかわした (e)救世主であり、死後、神によって復活したと信じるようになった。やがて、このような信仰をともしする人々は、[6] を中心として教団を形成した。こうして、キリスト教が成立したのである。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [6] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1]

①	サマリア	②	ベツレヘム
③	ナザレ	④	エルサレム

[2]

①	ヘロデ	②	エリザベト
③	パウロ	④	ヨハネ

- [3] [① 正直な人 ② 罪人
 ③ 善き人 ④ 真剣な人
- [4] [① 隣人 ② 神
 ③ 君主 ④ 父
- [5] [① 家族 ② 救世主
 ③ 隣人 ④ 祭司
- [6] [① ペテロ ② ルカ
 ③ パウロ ④ ヨハネ

問2 文中の下線部(a)に関して、新約聖書についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① キリスト教の正典のうち旧約聖書との対比において新しい契約と呼ばれる 27 の文書。いずれもラテン語で書かれている。
- ② イエスの言行録を記すマタイ、マルコ、ペテロ、トマスによる 4 福音書が冒頭におかれているが、そのうちではマルコがもっとも古く、マタイとペテロはほぼ確実にそのマルコ福音書を使用している。
- ③ 「使徒言行録」には、初代の使徒たちの宣教活動が記され、復活して天に挙げられたイエスの霊に導かれて福音がエルサレムからローマにまで拡大されていく様子が描かれている。
- ④ 「ヨハネの黙示録」は 2 世紀半ばのグノーシス主義者マルキオンが独自にしかも排他的に作り上げたものである。

問3 文中の下線部(b)に関して、福音を意味するギリシア語 *εὐαγγέλιον* の本来の意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① よい知らせ ② よい教え ③ よい恵み ④ よい行い

問4 文中の下線部(c)に関連して、パリサイ派についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[9]

- ① 規律の遵守を義務づけられ修道院に似た共同生活を行ったグループ
- ② 反ローマ武装闘争に決起した急進派グループ
- ③ 律法の遵守を重んじる平民の律法学者
- ④ 儀式を重んじる保守的な祭司階級

問5 文中の下線部(d)に関連して、イエスの律法主義批判をあらわす福音書の言葉として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[10]

- ① なぜ、安息日にはしてはならないことを、あなたたちはするのか。
- ② あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。
- ③ 見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ。
- ④ あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。

問6 文中の下線部(e)に関して、この愛を示す言葉として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[11]

- ① caritas ② ἔργος ③ ἀγάπη ④ charity

問7 文中の下線部(f)に関して、次の十字架の刑について記した聖書の文中の空欄 [12] に入る最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ

そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、[12]」と書いてあった。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「[12]」と自称した』と書いてください」と言った。しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。(ヨハネによる福音書 19章 18節-22節)

- ① ユダヤ人の王 ② 神の子 ③ ユダヤ人の神 ④ ローマへの反逆者

問8 下線部(e)に関して、救世主についての次の文中の空欄[13]に入る最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ

イエス時代のユダヤ教徒は、この世の終末のときにダビデ王の子孫からメシアが現れて、イスラエルを中心に神の国をもたらすと信じていた。このヘブライ語のメシア、正確にはマーシャハがギリシア語でキリスト(正確にはクリストス **Christos**)と呼ばれ、日本では一般的に救世主と訳されているものである。ヘブライ語で [13] という意味のマーシャハという動詞の名詞形マーシーアハに由来する語。ギリシア語ではクリストス(キリスト)と訳された。これに対してイエス(正確にはイエースース **Iēsous**)は、ヘブライ語のイエーシュアのギリシア語読みである。

- ① 水をくむ ② 世を救う ③ 油を注ぐ ④ 洗礼を授ける

問9 罪についてのイエスの考え方の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[14] (センター2012年本試より)

- ① イエスは、神の意志に反する行為を実際に行ってしまう人間の傾向を罪とみなし、その罪からの救済が誰に起こるかは、人間を超えた神の意志によって予定されていると主張した。
- ② イエスは、たとえそれを実行せずとも、人間が心のなかで悪しき思いを抱くことそれ自体を罪とみなし、自らが罪人であることを自覚し、その罪を赦す神の愛を信じるよう説いた。
- ③ イエスは、原初の人間が自由意志を悪用して神に背いたことに由来する人間のあり方を罪と考え、自由意志を正しく用いて自己自身を高めることで、その罪から脱却できると説いた。
- ④ イエスは、人間が神なしでも自力で生きていけると考えている傲慢を根源的な罪であると考え、その罪は、律法を厳格に遵守することでのみ、神から義とされて赦されると主張した。

第2問 次の文章を読み下の問い（問1～問7）に答えよ。（配点 24）

イエスの死後、使徒たちは、エルサレムを中心として宣教活動を展開した。これが (a)原始キリスト教のはじまりである。やがてキリスト教は、地中海世界のユダヤ人以外の人々のあいだにも広まっていったが、その過程でキリスト教の教義の確立と伝道の両面で大きな働きをしたのが、ユダヤ人パウロである。彼はもともと [15] 派に属し、原始キリスト教会の信徒に対する迫害の先頭に立っていた。しかし、その途中に劇的な回心を体験し、やがて一転して、ユダヤ人以外の諸民族に対するキリスト教伝道の先頭に立つことになった。

『新約聖書』は彼自身の手紙を多数ふくむが、それによれば、パウロは深刻な罪の意識の苦しみを通して、人間の現実をつぎのように考えた。最初の人間アダム以来、人間は罪のとりこにされており、罪は人間のうちに働いてあらゆるむさぼりを起こさせ、そのため人間は欲望を満足させることによって逆に滅びをまねいている、と。

この苦しみからパウロを解放したのが、イエスの死を [16] の死と見る信仰であった。彼はイエスの死のうちに、人からは何も求めずに、人を罪から自由にする神のめぐみを見た。こうしてパウロは、罪に支配された古い自分からの解放を味わったのである。彼は信仰の核心を、「人が義とされるのは、律法のおこないによるのではなく、[17] による」といいあらわし、神のめぐみを信じる人々は新しい命を約束されると説いた。そして [17] と [18] と愛をもってこの世に生きることをすすめた。

地中海世界に浸透したキリスト教は、はじめローマ帝国の迫害の対象となったが、4世紀末には、逆に国教の地位を占めることになった。この間、そしてそれにつづく時代に、教父とよばれる人たちが、ギリシア哲学、特にプラトン哲学を用いてキリスト教的真理を説明し、神学の確立に貢献した。こうして、神は何もないところから世界を創造したとする無からの創造の教義、アダムの罪はすべての人におよんでいるとする原罪の教義、また、「父なる神」と「子なるキリスト」と「聖霊」の三者は (b)実体は一つであるとする三位一体の教義が、このころ確立した。

中でも北アフリカ出身のアウグスティヌスは最大の教父と見なされている。彼は、原罪を負っている人間は、神の (c)恩寵によらなければ罪からの救いはおろか善を志すこともできないと説き、カトリック教会の権威の確立に大きな役割をはたした。彼は信仰の内容を [19] 哲学の考え方を用いていいあらわし、ギリシア的な真理への愛は、キリスト教の教える神に出会うことではじめて満たされると考えた。そして知恵、勇気、節制、正義のギリシアの四元徳の上に、パウロの説く [17], [18], 愛のキリスト教の三元徳をおいた。また、アウグスティヌスは、自己愛から生まれる「地上の国」と、神への愛から生まれる「神の国」が、混じりあい、抗争しながら終局に向かうものとして、人間の歴史とその意味を考察している。

中世になると、西ヨーロッパ全体がキリスト教化され、ローマ・カトリック教会は絶大な権威をもつようになった。この時期、哲学は神学につかえるべきものとされ、その研究はもっぱらキリスト教教義の論証、体系化に向けられた。この哲学は、教会や修道院に付属する学校（スコラ）で研究されたので (d)スコラ哲学とよばれる。

最大のスコラ哲学者は13世紀に出たトマス・アキナスで、彼は、[20] 哲学を用いてキリスト教の信仰内容を理性的に説明しようとした。彼にとって、(e)神学は哲学と矛盾するものではなかった。そして神の恩寵も自然の秩序をみだすものでなく、かえってこれを完成するものであった。信仰と理性の関係でいえば、信仰は、人間理性が見出す神についての理解を、啓示された真理へと秩序づけるものであった。

問1 文章中の空欄 [15] ~ [20] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

- [15] [① パリサイ ② エッセネ
 [③ サドカイ ④ ゼーロータイ

- [16] [① 贖宥 ② 免償
 [③ 贖罪 ④ 免罪

- [17] [① 従順 ② 信仰
 [③ 希望 ④ 清貧

- [18] [① 従順 ② 信仰
 [③ 希望 ④ 清貧

- [19] [① ストア ② 新プラトン
 [③ グノーシス ④ アリストテレス

- [20] [① ストア ② 新プラトン
 [③ グノーティス ④ アリストテレス

問2 下線部(a)に関して、キリスト教会が誕生したといわれる時の出来事として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。 [21]

- ① 主の昇天 ② 聖霊降臨 ③ 主の公現 ④ 聖体拝領

問3 下線部(b)に関して、三位一体説の一体が一つの実体であるならば三位とは何をあらわすか。最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。 [22]

- ① 三つのペルソナ ② 三つのウーシア
③ 三つのグラツィア ④ 三つのエウアングリオン

問4 下線部(c)に関して、神と教会と恩寵についてのアウグスティヌスの考えとして最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。 [23] (2017年センター本試験)

- ① 教会が指導する聖書研究を通して信仰を深めることにより、神の恩寵を得ることができると考えた。
② 人は神の恩寵によらなければ救われないと主張し、教会は神の国と地上の国を仲介するものだと考えた。
③ 教会への寄進といった善行を積むことにより、神の恩寵を得ることができると考えた。
④ 人は神の恩寵によらなければ救われないと主張し、贖宥状の購入による救済を説いた教会の姿勢は間違っていると考えた。

問5 下線部(d)に関して、次の文が説明するスコラ哲学者として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 [24]

新しい方法によって神学独自の課題と思考を明らかにし、当時の思想界に活気を与えた。その方法は、不信仰者には信仰の合理性を示し、信仰者には信仰の理解を求めるという二重の機能をもつものであった。すなわち「知らんがために信ず」の命題は、信仰に關することがらを、直接聖書に依拠して証明するのではなく、むしろ理性による論証の道をたて、その極限で理性の転換を明らかにする方法として自覚された。彼はこれによって神の存在を証明するとともに、三位一体、キリストの受肉と贖罪を解明し、さらに自由の問題に深く入って、神と人間の関係秩序を明らかにした。その鋭い論理と深い内容理解は、スコラ学の範となっただけでなく、今日まで多くの議論をおこし続けている。

- ① ヒエロニムス ② アンセルムス ③テルトゥリアヌス ④ オッカム

問6 下線部(e)に関して、神学と哲学を分離する二重真理説をヨーロッパにもたらした人物として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [25]

- ① アヴェロエス ② アリストテレス ③ トマス=アキナス ④ クレメンス

問7 トマス=アキナスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [26]

- ① 神や自由というものも感覚的印象に由来する観念であり、それは習慣によって身につけられたものにすぎないとした。
- ② 理性的に正しいとされる真理と啓示された信仰の真理とは別であり、各々は独立的に存在するとした。
- ③ イスラーム世界経由で流入した古代ギリシア哲学を用いて、キリスト教神学をいっそう精緻に体系化した。
- ④ キリスト教の三元徳にギリシアの四元徳を従属させ、それらをあわせた七つの徳を初めて説いた。

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 14）

古代インドでは、ブッダの出現するはるか以前、紀元前 1500 年ごろからこの地に侵入してきた [27] 人によって、(a)バラモン教を中心とする独自の文化が形成されていた。ここでは祭儀が重視され、司祭者であるバラモンは、彼らの築いた [28] という身分制度の最上位に位置づけられ、さまざまな特権を与えられていた。紀元前 7～6 世紀ごろになると、この祭儀中心の初期バラモン教に対し、人間の内面に重きをおく新しい思想が生じ、ウパニシャッド哲学を生み出した。このウパニシャッド哲学は、その後さまざまな形で展開するインド思想の母体となっている。

ウパニシャッド哲学ではつぎのように説く。人間の魂はその生存中の [29] によって生じるさまざまな運命にしばられており、これは死によっても断ち切られることはない。人間は死ぬと、それぞれの業にふさわしい生きものの姿をとって再び生まれ変わる。こうして無限に生死をくり返し、その間、心の安らぎを得ることがない。これを輪廻または輪廻転生という。それではこの輪廻の苦しみから解放されるためにはどうすればよいのか。それは、宇宙の諸現象の根底にあってそれ自身は決して変化することのない絶対的なものと、われわれ自身の奥底にひそむ真実の自己としての [30] が、もともと一つであること（梵我一如）を自覚することである。なぜなら、すべてのものはブラフマンから生まれたものであるから、われわれの根底にあるものも、このブラフマンにほかならないからである。このように、真実の自己を自覚し、梵我一如の境地に到達するとき、われわれははじめて輪廻を絶ち、一切の苦しみから解放された境地にはいること、つまり [31] ができるのである。

また、ウパニシャッド哲学は、真実の自己を自覚するためには、欲望にとらわれている小さな自我を否定しなければならないとし、世俗の生活から離れ、きびしい苦行や禁欲、そして瞑想に励むことを説いた。

このウパニシャッド哲学が花開いたのち、その精神を背景としつつも、バラモン教の伝統にとらわれず、みずから自由に思索し修行するさまざまな思想家がつぎつぎとあらわれた。ジャイナ教の開祖となった (b)ヴァルダマーナ（マハーヴィーラ）や、仏教の開祖となったゴータマ・ブッダもこうした思想家の一人である。

問1 文章中の空欄 [27] ～ [31] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [27] [① ドーリス ② ドラヴィダ
 [③ イオニア ④ アーリヤ

- [28] [① ヴァルナ ② スートラ
 [③ ジャーティ ④ クシャトリヤ

- [29] [① チャクラ ② カルマ
 [③ アートマン ④ ブラフマン

- [30] [① プルシャ ② アートマン
 [③ アーリマン ④ カルマ

- [31] ⎧ ① 成道 ② 祭祀
 ⎨ ③ 説法 ④ 解脱

問2 下線部(a)に関して、バラモン教についての説明として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[32]

- ① ヴェーダ聖典に基づいて発達した、特定の開祖をもたない宗教。
- ② 『ヴェーダ』とは『奥義書』という意味である。
- ③ 最古のヴェーダが『リグ・ヴェーダ』である。
- ④ バラモン教はヒンドゥー教の基盤をなしている。

問3 下線部(b)に関して、ヴァルダマーナ（マハーヴィーラ）の教説として最も**適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[33]（センター2006年本試験）

- ① 人間の思惟の形式は、世界の一部しか理解できない限定的なものであり、真理に到達するためには人間の思惟を否定しなければならない、と説いた。
- ② 運命によって人間の幸不幸は決まっており、人智の及ぶところではないので、いかに努力しても幸福になれるとは限らない、と説いた。
- ③ 人間の行為の善悪の究極的な基準は存在せず、悪行を行う人を非難する根拠もなく、善行も賞賛の対象にはならない、と説いた。
- ④ 解脱を目指して徹底した苦行主義に立つとともに、生き物に対する慈悲の行為として不殺生を実践しなければならない、と説いた。

問4 『ヴェーダ』に描かれるバラモン教の神で日本に入ってきた神として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[34]

- ① 閻魔 ② 大黒天 ③ 弁財天 ④ 帝釈天

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問10）に答えよ。（配点 32）

釈迦は生後7日に母のマーヤーに死に別れ、以後は亡母の妹すなわち叔母に〔35〕で育てられた。王子としての教養を積み生活は恵まれていたものの内向しがちであった。当時の風習により16歳で結婚し、のち男子をもうける。しかし富裕と安逸な日常のうちに、青年期を過ぎた釈迦は、人生の根源に潜む苦の問題に思いを深め、それに沈潜するなかで、苦の本質の追究とその解放である解脱を目ざすようになる。

29歳に達し、ついにいっさいを放棄して、城を脱出し出家する。ガンジス川辺に仙人2人を相次いで訪ねて、その禅定を学ぶ。しかしなお意を満たしえず、やがてガヤーの地に赴き、付近の山林にこもって出家者にふさわしい苦行に専念する。その苦行は激烈を極め、極度の断食のために身体は骸骨に似ても、なおそれを休まなかった。苦行は6年間続くが、かえって精神はもうろうとなり、初志から遠ざかってしまうことを自覚して、それを放棄する。山林を出て川で身を浄め、村の少女〔36〕から乳粥を受けて体力の回復を待ち、〔37〕の菩提樹の下に座って、ひたすら思索にふけた。

途中に悪魔の誘惑などもあったが、釈迦は瞑想に集中し、ついに大いなる悟りが開けて、ブッダすなわち「悟った人（覚者）」となった。その後しばらく悟りの醍醐味に浸り、長いためらいののちに、説法を決意した。その内心の動きは、悪魔や魔女の誘惑や梵天の切なる説法勧請という戯曲的表現で示されている。

ブッダは現実の人生が、いかに幸福そうにみえても、根本においては苦しみにほかならないというきびしい事実の認識から出発する。すなわち、だれもが老い、病み、死ぬことをまぬがれない。そもそも生まれてきたことそのことが苦しみである。これら生・老・病・死の四苦に加えて、さらに愛するものとは別れ、怨み憎むものに会い、もとめるものは得られないといった苦があり、結局、身心の働きすべてが苦となる。これを(a)五蘊盛苦という。このように人生は自分の欲するままにならないものである。

わたしたちがこのように苦しみ悩む原因は何なのであろうか。ブッダによれば、それは、〔38〕の三毒に代表されるような、わたしたち自身が生み出す悪い心の働き、すなわち煩悩である。したがって、この煩悩の火を消すことによって始めて、一切の苦しみからの解放が可能となる。しかし、そのためには、この世界をつらぬく真理＝(b)法を洞察しなければならない。なぜなら、この法についての〔39〕こそが、もろもろの煩悩の根本原因だからである。

ブッダの教えの中心は、涅槃にいたる道を説いたところにある。しかし、ブッダの教えはそれにとどまるものではなく、生きとし生けるものへの慈悲を説くものであった。慈悲とは、生命あるもの（衆生）をいつくしみ、あわれむ心である。ブッダが菩提樹の下で悟りを開いたのち、人々を救おうとして説法を決意したのもこの慈悲の心による。

ブッダの死後、仏教教団は保守的な上座部と進歩的な大衆部とに分裂した。以後両派は分派をかさね、結局約20の部派が並立することになった。これを部派仏教とよぶ。部派仏教は、出家し、きびしい戒律を守って修行し、〔40〕を理想として自分一個の悟りをもとめることを重視した。

これに対して、紀元前1世紀ごろから、一般民衆ならびにその指導者であった説教師の間で、自分の悟りをもとめるという自利とともに慈悲の利他行を重んじ、広く一切の衆生の救済を目指して献身する〔41〕を理想とする運動がおこった。彼らは、みずからの教えを、大衆を救う大きな乗り物ともいうべき教えであるとして、大乘仏教と名づけた。

問1 文章中の空欄 [35] ~ [41] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[35] [① カピラヴァストウ ② クシュナガラ
③ ブッダガヤ ④ サールナート

[36] [① プラジャーパティ ② マーラー
③ ヤショーダラー ④ スジャータ

[37] [① カピラヴァストウ ② クシュナガラ
③ ブッダガヤ ④ サールナート

[38] [① 仏・法・僧 ② 頓・珍・漢
③ 貪・瞋・癡 ④ 智・仁・勇

[39] [① 無常 ② 無記
③ 無明 ④ 無情

[40] [① 阿羅漢 ② 如来
③ 菩薩 ④ 阿修羅

[41] [① 阿羅漢 ② 如来
③ 菩薩 ④ 阿修羅

問2 下線部(a)に関して、「五蘊」の項目として**適当でないもの**を、次の①~④のうちから一つ選べ。[42]

① 空 ② 色 ③ 受 ④ 想

問3 下線部(b)に関して、法をあらわす語として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[43]

① ブッダ ② サティア ③ ダルマ ④ サンガ

問4 仏教の修行法である八正道についての説明として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[44] (2018年センター本試験)

- ① 快樂と苦行を避け、中道に生きるための修行法が八正道であり、その一つである正業とは、悪(あ)しき行為を避け、正しく行為することを指す。
- ② 快樂と苦行を避け、中道に生きるための修行法が八正道であり、その一つである正業とは、人の行為と輪廻の関係を正しく認識することを指す。
- ③ 六波羅蜜の教えに由来する修行法が八正道であり、その一つである正業とは、悪しき行為を避け、正しく行為することを指す。
- ④ 六波羅蜜の教えに由来する修行法が八正道であり、その一つである正業とは、人の行為と輪廻の関係を正しく認識することを指す。

問5 縁起の法を理解すれば執着を離れることができる理由の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[45] (2017年センター追試験)

- ① ものはいずれも、永遠の実体をもたず、他のものを原因や条件にして生じたり消滅したりするため、執着する心の根底にある「ものは確固たる存在である」という思いは、誤りであると分かるから。
- ② 外界の存在として知覚されるものは、実際には存在しておらず、知覚する者の心を作り出したものにすぎないので、そのような心をもつ限り、知覚する者は、はじめからすべてのものを手に入れていると分かるから。
- ③ ものはいずれも、永遠の実体をもたず、他のものを原因や条件にして生じたり消滅したりするが、それと同じように、執着する心も永遠ではなく、時間の経過とともに静まっていくのが定めであると分かるから。
- ④ 外界の存在として知覚されるものは、実際には存在しておらず、知覚する者の心を作り出したものにすぎないのであり、「ものと心は同一である」と理解することで、真の自我にたどりつけると分かるから。

問6 ブッダが初めて教えを説いた際に語ったとされている四諦についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[46] (2015年センター本試験)

- ① 苦諦とは、人間は誰しも、苦しみを嫌い楽を求める心をもっているという真理を指す。また、集諦とは、そうした思いが積み重なって煩悩が増大するという真理を指す。
- ② 苦諦とは、人間の生の有り様は苦しみであるという真理を指す。また、集諦とは、そうした現実のゆえに、心の集中が妨げられ悟りが得られないという真理を指す。
- ③ 滅諦とは、煩悩の滅した安らぎの境地があるという真理を指す。また、道諦とは、そうした境地に至るための、極端に陥ることのない正しい修行法があるという真理を指す。
- ④ 滅諦とは、あらゆる存在はいつか必ず滅ぶという真理を指す。また、道諦とは、そうした道理を心に留めて、禁欲的な苦行を実践すべきであるという真理を指す。

問7 ブッダの示した修行方法である八正道についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[47] (2014年センター本試験)

- ① 「正語」とは、ブッダの語った言葉を正しく記憶することである。
- ② 「正見」とは清らかで正しい生活を送ることである。
- ③ 「正精進」とは、肉食を避け正しく食事を取るることである。
- ④ 「正定」とは、正しい瞑想(めいそう)を行い精神を統一することである。

問8 ブッダの教えを表す四つの命題である「四法印」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48] (2014年センター追試験)

- ① 「諸法無我」とは、それ自体で存在するような不変の実体は何もない、という教えを指す。また「一切皆苦」とは、一見楽しそうなことも含め、この世の現実のすべては苦しみにほかならない、という教えを指す。
- ② 「諸行無常」とは、あらゆる行為は常に変転し続けるので、苦行にも意味はない、という教えを指す。また「涅槃寂靜」とは、我執を断った安らぎの境地へと至ることが理想である、という教えを指す。
- ③ 「諸法無我」とは、ブッダのもろもろの説法は、すべて「我などない」という一つの真理を表している、という教えを指す。また「一切皆苦」とは、心のなかの煩悩が一切の苦しみの原因である、という教えを指す。
- ④ 「諸行無常」とは、すべてのものは常に変転し続け、とどまることはない、という教えを指す。また「涅槃寂靜」とは、聖典に定められた様々な祭(さい)祀(し)の執行を通して解脱に至るべき、という教えを指す。

問9 次の仏教伝説は、ゴータマ・ブッダが難しい教理を用いずに俗人を教え導いた姿を伝えている。この伝説を読み、ブッダが母親に与えた指示の意図として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[49] (2002年センター追試験)

或(あ)る貧しい家の娘が嫁ぎ先で子どもを産んだ。子どもは走り回って遊ぶまでに成長したのに突然死んでしまった。愛児の死に気が動転した母親は、亡骸(なきがら)を抱いたまま、子どもを生き返らせる薬を求めてさまよい歩いた。人々は「死んだ子に飲ませる薬があるものか」と言って彼女をあざけた。

或る男がこの様子を見て、ブッダなら彼女を正気に戻すことができると思い、彼女にブッダのところへ行って薬をもらうように勧めた。彼女がブッダのもとにやってきて薬を求めると、ブッダは、「町に行って家ごとに訪ね歩き、まだ一度も死人を出したことのない家から、芥子(けし)粒(つぶ)をもらってきなさい」と指示した。(『長老尼の詩註』)

- ① いくら家々を回って探しても指示された芥子粒は手に入らないことを体験させ、子どもを生き返らせる薬が手に入らないのは、母親自身が前世で犯した悪い行いの報いであると諦(あきら)めさせるため。
- ② いくら家々を回って探しても指示された芥子粒は手に入らないことを体験させ、家族の死で悲しみ苦しむのは自分ばかりではないことに気づかせ、人は死を免れえないことを理解させるため。
- ③ 苦勞を重ねて最後には指示されたとおりの芥子粒を手に入れることによって、その芥子粒を用いた供養をして、幼くして亡くなった子どもが来世では幸福に暮らせるように祈願させるため。
- ④ 苦勞を重ねて最後には指示されたとおりの芥子粒を手に入れることによって、困難にめげずにブッダの教えに従い努力を重ね続ければ、人はやがて必ず報われることを信じさせるため。

問題は次のページに続きます。

問10 古代インドの仏教では食事の作法を含め、様々な規則が定められた。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50] (2013年センター追試験)

- ① 在家信者は、不飲酒戒、不殺生戒、不邪淫戒などの五戒を遵守することが求められた。
- ② 五戒の受戒は、ブッダ、仏教の教え、僧侶集団の三者に帰依した出家者のみに許されていた。
- ③ 出家者は、修行に専念するため、在家信者ほど厳しい生活規則は課されなかった。
- ④ 在家信者も出家者も、無所有などの五戒を守ることによって、煩惱から離れることを目指した。

これで問題は終わりです。